

伝説コース

(関田地区)

STAMP

course memo

③ 距離：5.5km

👣 歩数：8400歩

🕒 時間：80分

🔥 消費カロリー：300kcal
(ミルフィーユ1個分)

さ 里人こそりて 初午祭り

二月初午の日に豊饒・商売繁盛を祈る祭り。山車が出て、雪が降るととても幻想的な祭りになる。



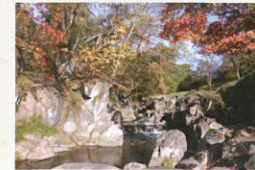
第1回高山村の「未来に残したい写真」コンテスト入賞作品

四季を通じて美しい川の景色や自然、村に伝わる伝説を楽しみながら歩けるコース。添うが森で恋の願いを叶うかも!?



け 溪流清き どうどう淵

名久田川が滝となって流れ落ちる音が、かつてはどうどうと響いたというところから名付けられた。この淵には龍宮伝説(椀貸伝説)があり、甌穴(ポットホール)も見ることが出来る。



【どうどう淵の伝説】

関田の与五右衛門がどうどう淵に咲く藤の花を採りに行ったが、淵に鉈を落としてしまい、拾おうと潜っていくと、着物を着た女たちが酒や料理を振る舞ってくれた。宴を楽しんだのち鉈を持って家に帰ってくると自分の葬式が営まれており、驚く皆に話を聞かせた。与五右衛門はその後一生懸命働き、だんだん年をとって寝込むようになった。するとどうどう淵で飲んだ酒が飲みたいという。ひょうたんをどうどう淵に浮かべてみよと言うので浮かべると沈んでいき、酒がいっぱい入って返ってきた。与五右衛門は大変喜び、嬉しそうに飲んで眠るように死んでいった。



て 天慶の 森の伝説 石の宮

あわび姫と小野俊明の悲しい恋の伝説が伝わるパワースポット。恋の願いを叶えたい人は添うが森へ、離縁したい人は添わずが森へ!

【添うが森、添わずが森の伝説】

天慶3年、平将門征伐の際、小野俊明はあわび姫と恋に落ち、軍から遅れてしまった。しかし女に迷ってはいけなさと出家し、熱退と名乗り尻高泉照寺住職となった。姫はその後一子小太郎とともに和尚を訪ねたが会えず、名久田川に身を沈めてしまった。村の者が哀れんで塚を作り、これに恋の願いをかけること叶うことから「添うが森」と呼ぶようになった。その後熱退が亡くなり、川を挟んで添うが森の反対に塚を立て、離縁の願いをかける塚として「添わずが森」と呼ぶようになった。



添うが森



添わずが森